

「59th ASH annual meeting 参加報告書」

横浜市立大学附属市民総合医療センター 血液内科 寺中 寛

本年度の ASH は南部の Atlanta にて開催されましたが、Trump 大統領がパリ協定からの離脱を表明したことを非難するかのような大寒波/大雪に見舞われ、私の搭乗していた飛行機も着陸できたのですが滑走路で全く動かなくなるというハプニングから始まりました。空港を出てからもタクシーには行列、当初は金曜日の夕方に registration だけ済ませようと考えておりましたが、予定より 6 時間ほど遅れてしまいそれもかきませんでした。私がホテルを予約したのは比較的治安も良く、ASH 会場から shuttle bus で 35 分のところにある Buckhead 地区でした。朝の演題が 7 時頃から始まるため 6 時半にはホテルを出ていましたが、通勤時間帯と重なると渋滞にはまるため注意が必要とのことでした。ASH の会場は話には聞いていたのですが、本当に巨大で端から端まで移動するのに 10-15 分、混雑しているとそれ以上かかりました。私が多く参加していた教育講演はほとんどがメインの会場で行われることが多く、移動する必要は少なかったのですが、oral session や poster 会場まで行くのに非常に時間はかかりました。今年は大雪のため発表に間に合わない演者や poster もあり、興味あるものが聴くことができない等のハプニングも多かったです。流れとしては午前中の演題の合間の coffee break に poster を見に行き、目星をつけておいて夕方の poster session に参加していました。poster session ではビール+チーズなどのおつまみを片手に様々なドクターと話せる雰囲気楽しかったのですが、移動日の疲れと時差により酔いが回るのが早かったことは否めませんでした。

発表内容については CART cell therapy に関する報告が非常に多く、FDA はすでに leukemia と lymphoma に対して approve していますが、myeloma に関する報告もありました。bb2121 study では myeloma 用に BCMA を target にし作成されており、ORR や MRD negativity は heavily pretreated 患者群にもかかわらず良い成績でした。ただし、cytokine releasing syndrome をはじめとした toxicity に関しては要注意しなければならず、Tocilizumab の使用タイミングが大事とのことでした。今後も一層 CART cell therapy に関する報告は増えると感じましたが 5000 万円+入院費諸々で合計 1 億円を超えるような治療が現実的なのかは疑問です。個人的には Salamanca 大学の Dr. Mateos の活躍が目立っていたと感じました。GEM-CESAR study は high risk smoldering myeloma 患者に対して KRd induction 後、大量 MEL, ASCT, KRd consolidation, RD maintenance for up to 2 years というもので、consolidation 後の MRD negative は 62%, \geq CR 74%, VGPR 20%という結果になっていました。同じく Dr. Mateos から、ALCYONE study は 移植非適応の myeloma 患者で Daratumumab-VMP vs VMP を比較したもので、VMP よりも D-VMP の方が ORR, PFS, MRD negativity において優位に優れていたというものでした。Europe と US の保険や現行の治療の違いもあると思いますが、非常に興味ある報告でした。他にも医療経済的な研究もあり、特にリーマン・ブラザーズの倒産に端を発した不況に伴い、黒人やヒスパニック系の家庭では白人家庭より優位に収入が低下した結果、貧困のため医療機関を受診できずいよいよ救急搬送されてきた際には重症になっているという発表でした。非常にお国柄を反映していると思いました。

今回の ASH で受けた刺激が薄れないうちに、臨床と研究に打ち込み来年の ASH にも参加したいと感じました。今回はこのような貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。